

## ●清浄な空気と緑満喫

須木村は人口二千四百人ほど。生き生きとした活動、自然があふれ、山間部を媒介とした独自の文化が脈々と伝えられている。最も古い遺跡は縄文時代初めまでさかのぼり、それ以降連綿とした人々の生活の跡が残る。

その自然の恵み、美しい風景、人々の知恵を凝縮して見せてくれるのが「すきむらんど」。一九八八（昭和六十三）年に村が開発。小野湖をまたぎ、歩道の斜張橋では日本一といわれる大つり橋は全長百五十五メートル。湖に落下する「ままこ滝」と赤松が青い水面によく映える。

観光スポットでもあり、ゴーカート、淡水魚展示館、世界各地の特徴のある山小屋を模して造られた山小屋が訪れる人に人気。売店の名産クリを素材にした「愛す栗夢」（アイスクリーム）、大粒の「栗甘納豆」は土産品としてよく売れている。このほか山里を演出する素朴な味として

辛党には「栗焼酎」がある。

清浄な空気と山の緑を満喫、「すきむらんど」で楽しんだ後は、隣接するヒノキのおいのす「かじかの湯」が体を癒やしてくれる。

村の東部は広大な大森岳の照葉樹林地帯である。樹林と渓谷の美しさは九州中央山地国定公園の名に恥じない。

総面積の91%が山林、そのうちの89%が国有林で、ほとんどの村民が何らかの形で山にかかわっている。山の斜陽が言われて久しいが、ここでは森林の大切さ、素晴らしさを伝えようと、いろんな事業を試みている。その一つが森林研究グループの「森林、林業体験教室」の開催。後継者づくりが目的で、参加した子供たちからは「将来は林業をやってみたい」「森林の大切さがよく分かった」と頼もしい反応もある。

かつては日本一のクリ産地で、二〇〇〇（平



小野湖に架かる大つり橋。青い水面に映えて美しい

成十二）年には同村で「全国くりサミット」を開いた。それ以降、栽培農家はクリ産地の生き残りを懸けて、大玉クリ生産に向けた研究を進めている。

須木村の一大行事が村民総出で楽しむ「ほぜ（豊穰）まつり」。五穀豊穰（ほうじょう）を祝い、毎年十一月三日の文化の日の本庄川河川敷で開催している。メーンがほぜっこ相撲。この日のため子供たちは練習を重ね、当日は力強い技の応酬で大いに盛り上がる。また、夏の花火大会には村内外から二千人を超える人でにぎわう。

山と森林の素晴らしさを発信し続ける須木村。自然に忠実な村民がそれを支える。

首藤光幸